

2026.10月号 No.197

JFPI REPORT

2026年「9月 印刷の月」講演会・記念式典・懇親会

日印産連表彰 印刷功労賞10名、印刷振興賞15名、特別賞1団体が受賞

講演会

「印刷が支える本の未来を考える」

小説家 今村翔吾氏

- 2 2026年「9月 印刷の月」講演会・記念式典・懇親会を開催**
印刷功労賞10名、印刷振興賞15名、特別賞1団体が受賞
講演会「印刷が支える本の未来を考える」 小説家 今村翔吾氏
- 8 日印産連表彰 受賞者の紹介**
- 18 新たなビジネス事例
印刷イノベーション最前線! 第6回**
大学運営を効率化するシラバスシステムを自社で企画・開発・運用 イエズミ印刷株式会社
- 20 プライバシーマークニュース**
2025年度個人情報に関する事故報告(2)／プライバシーマーク付与事業者のご紹介
- 22 グリーンプリンティングニュース**
2026GP環境大賞等表彰 GP環境大賞／GPマーク普及大賞／GP資機材環境大賞
- 26 「紙の価値」を発信する祭典「ペーパーサミットジャパン2026」に出展**
- 28 最近の活動から**
第59回 造本装幀コンクール 授賞式 開催レポート
- 30 会員ニュース**
印刷工業会／全印工連／日本フォーム工連／ジャグラ／全製工連／全日本シール／
全国グラビア／GCJ／全日本スクリーン・デジタル／全日本光沢化工紙
- 35 JFPI-NOTE (2026年7月～9月)**
- 36 事務局だより**

2026年9月印刷の月 記念式典

一般社団法人 日本印刷産業連合会



2026年「9月 印刷の月」講演会・記念式典・懇親会を開催

日印産連表彰 印刷功労賞10名、印刷振興賞15名、特別賞1団体が受賞

一般社団法人日本印刷産業連合会(大橋輝臣会長)は、2026年「9月印刷の月」記念式典を、9月9日(水)東京・紀尾井町のホテルニューオータニ「鶴の間」に於いて、経済産業省をはじめとする各界のご来賓や会員10団体並びに関連業界から、約400名の出席者を迎えて開催した。

記念式典に先立ち、小説家 今村翔吾氏によって「印刷が支える本の未来を考える」をテーマとした講演会が行われた(別掲P7)。

長年にわたり印刷産業の発展に貢献された個人・団体に対し顕彰する日印産連表彰では、印刷功労賞10名、印刷振興賞15名、特別賞1団体が表彰、授与式が行われた。印刷功労賞を受賞した内藤正和氏が受賞者を代表して謝辞を述べた。

式典後は場所を移し懇親会を開催した。小林友也日印産連 副会長による開会の挨拶、乾杯のご発声はプレス&デジタルプリンティング機材協議会 山田周一郎会長が務めた。賑やかな談笑とともに会は進行し、印刷業界発展への親睦を深める場となった。中締めには会員10団体の会長が壇上に揃い、代表して全日本製本工業組合連合会 田中真文会長が中締めの挨拶を行い懇親会は終了した。

主催者代表あいさつ

記念式典は一同が起立、国歌斉唱によって開会した。

開催にあたり大橋会長が主催者を代表して挨拶を行った。

「本日は各界より多くのご来賓の皆様にご参加いただき、また、ご公務多忙のなか経済産業省 商務・サービスグループより寺本政策統括調整官をはじめ文化創造産業課の皆様にご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。あわせて会員10団体の皆様ならびに関連業界の皆様には、日頃より格別なご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年も皆様の多大なるお力添えのもと、9月印刷の月記念式典を“印刷の力で社会を支える”をテーマに開催できますことに心から感謝申し上げます。本日は、印刷産業の発展と印刷文化の昂揚に大きく貢献された方々に対して、日印産連表彰を行います。受賞者の皆様には心からお祝いを申し上げます。

先ほど行われました講演会では、今村翔吾先生にご登壇をいただき、「印刷が支える本の未来を考える」をテーマに、本という存在がこれからの社会にとって大きな価値と可能性を持っていることを力強くお話しいただきました。印刷に深く関わる



主催者を代表して挨拶する大橋輝臣会長

我々に大きなエールを送っていただいた講演だったかと思います。改めてこの式典が印刷産業の社会的役割を見つめ直し、未来への歩みを共有する機会となれば幸いです。

私たちは印刷産業が社会を支える

インフラとしての役割を持ち、顧客企業の変革を支え、地域経済を支える基盤産業であるという原点を改めて確認したいと考えています。日印産連は今後も様々な発信を通じて、社会の持続可能な成長を支える価値創造産業としての印刷産業の重要性を社会に示してまいります。これからも皆様の一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます」と述べ、結びにご来賓の方々や会員10団体と関連業界の今後の発展と健勝を祈って挨拶とした。

来賓祝辞

壇上のご来賓紹介に続き、来賓を代表して経済産業省商務・サービス政策統括調整官の寺本恒昌氏から祝辞が述べられた。冒頭、熊本地震の被災者へのお悔やみを述べ復旧復興にむけた支援を行うとした。記念式典開催へのお祝いの言葉のあと「印刷産業は私たちの身の回りのあらゆる製品に関わっています。全国各地で地域の顧客ニーズに合わせて、多角的な事業展開を行われ、製造業やサービス業のサプライチェーンにおいても重要な位置を占め、国民生活を支える極めて重要な産業であると認識しています。そのなかで、日印産連は10団体・会員企業5719社とする印刷産業全体の東ね役として、紙の印刷に加えて、建材・電子部品、さらには映像やウェブサイトといったデジタルコンテンツの制作など、印刷技術をベースとした事業領域を拡大し、多岐にわたる関連産業の振興の要となっておられると認識しております。今後とも印刷産業の枠を超えた新しい価値の創出、印刷産業全体としての生産性向上、付加価値の創出にぜひ取り組んでいただき、日本経済の牽引役となっていただくことを強く期待しております。

日本経済は中東情勢の緊迫化やそれに伴う原材料価格・エネルギーコストの上昇など、依然として不確実性の高い状況です。一方で賃上げや国内投資が引き続き高い水準を維持しており、名目GDPも700兆円に至るような大きな変化の兆しも現れています。こうした流れをしっかりと捉えて、賃上げと投資が牽引する成長型の経済へ確実に転換していくためには、稼ぐ力の強化と賃上げの好循環の実現が重要であり、価格転嫁や取引適正化、そういった観点からの取り組みも一層求められていると思います。

日印産連においても取引適正化に関する実態調査を今年行っていただきました。調査の結果、価格協議や価格転嫁には進展が見られた一方で、十分な対価が支払われていない業務や無償対応の存在、転嫁されるべきコスト上昇分の未転嫁といった課題も明らかになっています。こうした課題に対し、適正取引の推進に向けた自主行動計画において、従来の商慣行の見直しに踏み込む改定など、賢明なアクションで対応いただいていると承知しています。印刷業界においては、同業社間での取引も多く、発注する側の企業の皆様にも自らの取引状況をご確認いただければと考えております。

来賓祝辞 寺本恒昌経済産業省
商務・サービス政策統括調整官

また、他業種との取引についても、私どもは価格転嫁を阻害する商慣行を有する業界をしっかりと特定し、取引適正化を呼びかけていく取り組みを進めたいと考えています。官公庁に関しても、今年7月に総務省と連携し全国の自治体に対して、印刷入札や契約についての適正化を求める通知文を配布しています。引き続き、物価高を乗り越え、強い経済をしっかりと実現していくために、価格転嫁・取引適正化の取り組みを皆様と一緒に進めてまいりたいと考えています。

全国各地に根ざして事業を展開されている印刷業界の皆様のご活躍なくして、日本経済の成長はないと思っています。今後も地域から日本を元気にしていただけることを強く期待します」と述べた。

2026 年度 日印産連表彰・授与式

「印刷功労賞」「印刷振興賞」「特別賞」表彰が、プレゼンターの大橋会長から授与された。

■印刷功労賞

団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与した方に対して授与される印刷功労賞には、10名（別掲p9～11）が表彰され、内藤プロセス株式会社 代表取締役 内藤正和氏が代表して表彰状を受け取った。

■印刷振興賞

業務の進歩改善に寄与された方、多年にわたり後進の指

導並びに業界の指導に貢献された方に贈られる印刷振興賞には、15名（別掲p12～14）が選ばれた。共同印刷株式会社 顧問の國府田徳明氏が代表して表彰状を受け取った。

■特別賞

特別賞は各種活動を通じて印刷産業界の地位向上に寄与された団体・個人等に贈られる。受賞した滋賀県印刷工業組合（別掲p15）は、「淡海（おうみ）のいろプロジェクト」を令和3年度に始動させ、地域の物語を紡ぐ特別な色として合計27色を選定した。地域の文化的価値に深く踏み込むことで付加価値向上を図ったことは、中小印刷業界の発展・振興に大きく貢献しているとして評価された。代表して理事長の中村寿志氏が壇上に上がった。

印刷功労賞



印刷功労賞受賞者の諸氏



印刷功労賞 代表 内藤正和氏

印刷振興賞



印刷振興賞受賞者の諸氏



印刷振興賞 代表 國府田徳明氏

特別賞



特別賞 滋賀県印刷工業組合



特別賞 中村寿志理事長

■受賞者代表謝辞

受賞者を代表して印刷功労賞を受賞した内藤正和氏が謝辞を述べた。

「印刷産業は出荷量が減少して下降線を帯びていると言われている今日ではありますが、まだまだ業界は健全に動いております。今年は年初からの



謝辞を述べる内藤正和氏

石油関連の滞りもあり、正直苦戦は強いられていましたが、現在は立ち直りの機運であります。

私はシルクスクリーン印刷の会社を起こして50数年経ちます。始めた当初、1970年代は第一次オイルショックで石油価格が高騰して、トイレトペーパーがないと大騒ぎをした時代であります。今年も価格高騰と物が出回らないと言って、国中が右往左往していました。時代は巡ると言いますが、「同じことが時を経て繰り返す」今年はそのように感じています。

昔よく言われた言葉があります。「継続は力なり」。起業当時の苦しい時代から山あり谷ありと50年を経てきました。長く続けることが大事、時代が変われば良いこともある—我が社はこの言葉を今でも思いつつ、現在も事業を維持し継続しております。

私がよく使う言葉は「街に出よう」。会社に閉じこもっているだけではなく、街に出れば仕事がたくさん溢れている。コンビニエンスストア、駅、書店、飲食店、家電製品、電子部品、タクシーに乗れば車内にデジタル広告、そしてデパートへ行けばあらゆるところでアナログ印刷、デジタル印刷とたくさん目の目にします。これらの既存製品を見ながら、新たな提案を試みて仕事をつなげていこう、こんな思いをいつも持っています。

私も印刷10団体もつながりを強固にしながら、さらなる向上を目指して印刷文化の発展に邁進していこうではありませんか。それが活気ある印刷業界につながっていくと考えています」と述べ、会場から祝福を込めた温かい拍手が送られた。

懇親会

記念式典が滞りなく終了したことが告げられ、懇親会は日印産連 小林知也副会長の開会の挨拶によってスタートした。「日本印刷産業連合会として、今年度は健全な商取引や環境政策による新しいビジネスの創出と基盤事業の見直しを重点項目として挙げております。これまで重ねてきた取り組みを見直し、時代の変化に合わせた取り組みをしていきたいと思っているところです。その中でも特に力を入れているのが、情報セキュリティの強化です。先日、日本フォーム印刷工業連合会で日本サイバー犯罪対策センターから講師を迎え、講演会を行ったところ、なんと3,000人ぐらいの情報セキュリティのスペシャリストがいて、何かあったらいつでも対応してくださるとのことでした。しかし、印刷業界内の技術などの詳細を共有するのは難しいので、まずは業界内の情報セキュリティに詳しい人たちとしっかり話をして対策をしてくださいとアドバイスをいただきました。これからも、我々はいろいろな人と協力してやっていけたらなと思っております。ぜひこの機会を有効に楽しんでいただければと思います」。

続いてプリプレス&デジタルプリンティング機材協議会の山田周一郎会長が乾杯のご発声を行った。「天災や海外の戦争や紛争が多々起こっていて、皆さんも経済的な影響を受けていると思います。そういう状況下で、これだけの業界の面々が揃われて、FACE TO FACEで情報交換であるとか今の状況についての認識を深められ、こうして業界としてひとつにまとまっていることは、非常に大事なことで感じています。印刷業界は、毎年々大きな変化が起こっていますが、一方でデジタ



開会にあたり挨拶する小林知也副会長



プリプレス&デジタルプリンティング機材協議会
山田周一郎会長による乾杯のご発声

ル技術の発展であるとか、印刷物の新しい付加価値の創出に皆で挑戦していこうという動きもあり、印刷業界には新しい可能性が大きく広がっていると思っています。

今日ご参集の皆様が、この記念式典と懇親会を通じて交流し、これからの新しい発展に有意義な場となるよう祈念して、杯を挙げたいと思います」の言葉のあと、一同グラスを手に乾杯を唱和し、フロアいっぱいに賑やかな歓談が繰り広げられた。

会も終盤を迎え、日印産連会員10団体の会長が壇上に紹介され、中締めとなった。代表して全日本製本工業組合連合会 田中真文会長から「デジタル化が進み、紙離れが進む中、先ほどの今村先生の講演で“紙の印刷にはまだ十分価値はある”と伺って、大変心強く思った次第です。激変している世の中ですが、各社それぞれ個性を生かし業績を伸ばしていければと思います。

仕事上、皆さんは社長として、あるいは責任者、管理職としてストレスが溜まると思っていますが、実は仕事より皆さん一人ひとりの健康の方が大切だと思います。皆さんがご健康で、ますます社業に邁進し発展できるようご祈念いたします」と、息のあった三本締めで懇親会は終了した。



登壇した10団体代表の皆さま



全日本製本工業組合連合会
田中真文会長による中締め

講演会

印刷が支える本の
未来を考える

小説家 今村 翔吾氏

講演会では、小説家の今村翔吾氏が「印刷が支える本の未来を考える」をテーマに講演を行いました。

作家活動を行うと同時に本を読者に届ける書店オーナーでもある今村氏から、出版業界や印刷業界との関係性、本との出会いや小説家になったきっかけ、書店経営に踏み出した経緯、デジタル時代において紙の本が持つ価値と可能性についてなど、興味深い内容でお話いただきました。

最後に今村氏は「未来の子どもたちに紙の文化の選択肢を残したい」と会場に語りかけ、そのためにこれからも全力を尽くすと宣言。「印刷は、ただ紙に文字を刷っているのではなく、紙に思いを載せていく生業だと思う」と、出版文化を支える印刷業界に力強いエールを送りました。

講演会の後には、今年8月に発売された書籍『乱読御免』の直筆サイン会が行われ、並んだ一人ひとりと今村氏が笑顔で言葉を交わす光景が見られました。



【プロフィール】

- 1984年 京都府生まれ。滋賀県在住。
ダンスインストラクター、作曲家、守山市埋蔵文化財調査員を経て作家デビュー。

【受賞歴】(受賞年／作品名／受賞名)

- 2016年 「狐の城」九州さが大衆文学賞大賞・笹沢左保賞
- 2018年 「火喰鳥 羽州ぼろ鳶組」第7回歴史時代作家クラブ・文庫書き下ろし新人賞
「童の神」第10回角川春樹小説賞
- 2020年 「八本目の槍」第41回吉川英治文学新人賞
- 2020年 「じんかん」第11回 山田風太郎賞
- 2021年 「羽州ぼろ鳶組シリーズ」第6回吉川英治文庫賞
- 2022年 「塞王の楯」第166回直木三十五賞

【その他】

『イクサガミ』がNetflixで実写ドラマ化、『火喰鳥』が地上波でアニメ化された。

テレビやラジオにレギュラー番組を持つほか、一般社団法人ホンミライの代表理事、公益社団法人日本文藝家協会 評議委員、活字文化推進会議 委員や多数の観光大使、『角川春樹小説賞』と『小説現代新人賞』の選考委員を務める。

また、『きのしたブックセンター』など3店舗の書店オーナーとしても活動し、11月には愛媛県松山市にて4店舗目となる書店がオープン予定。

日印産連表彰受賞者の紹介

日印産連表彰は、長年にわたり印刷産業の発展に貢献された個人・団体に対して顕彰する制度で、「9月印刷の月」記念式典において表彰が行われる。本年度は7月22日に開催された表彰選考委員会の審議を経て、同日の顕彰委員会で承認され、7月29日に開かれた第3回理事会にて決定された。

本年度は印刷功労賞10名、印刷振興賞15名、特別賞1団体が表彰を受けた。

日印産連表彰規定(抜粋)

◆**印刷功労賞**は次の各項のいずれかに該当する者に授与する。

- ①印刷産業界にあって団体運営を通じて印刷産業の発展向上に寄与した者
- ②その他、前項に準ずる者

◆**印刷振興賞**は次の各項のいずれかに該当する者に授与する。

- ①業務の進歩改善に著しく貢献した者、若しくは特に技術優秀な者又は優れた発明考案をした者
- ②多年にわたり後進の指導並びに業界指導に貢献した者
- ③その他、前項に準ずる者

◆**特別賞**は次の各項のいずれかに該当する者(団体を含む)に授与する。

- ①地域社会の諸活動を通じて地域の振興に貢献し、以て印刷産業界の地位向上に寄与した者
- ②福祉活動を通じて社会に貢献し、以て印刷産業界の地位向上に寄与した者
- ③その他、前項に準ずる者

印刷功労賞

大橋 幸成

ダイオーミウラ株式会社
取締役
企画・開発本部長



●印刷工業会

受賞理由

1993年に三浦印刷株式会社に入社し、営業、企画、生産管理等の部門にて印刷業界に関わるとともに、印刷工業会の商業印刷部会、資材部会に参加し団体活動にも携わってきた。

2017年には印刷工業会並びに日本印刷産業連合会理事に就任し、長年にわたり業界発展、地位向上に尽力した。近年はサステナビリティ推進活動においてグリーンプリンティング普及やメディアユニバーサルデザイン振興にも力を注いでいる。

武部 健也

大和出版印刷株式会社
相談役



●全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

令和2年から全印工連常務理事、兵庫県工組理事長として中小印刷産業の振興・発展に務める。この間、近畿地区印刷協議会会長などの要職を務め、全印工連基本テーマ「印刷産業の構造改革」のもと、高付加価値コミュニケーションサービス産業への転換を目指して、社会から求められる魅力あふれる産業へ向けての諸事業の周知・啓発に尽力するなど、中小印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

中本 俊之

株式会社中本本店
代表取締役



●全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成28年から、全印工連常務理事、中国地区印刷協議会会長、広島県工組理事長などの要職を務める。この間、「Happy Industry 人々の暮らしを彩り幸せを創る印刷産業」というブランドスローガンに則し、印刷産業の新しい方向性を提案し、人々の幸せを作り続ける印刷産業を実現するための各種事業の推進に尽力し、中小印刷産業の発展に尽くした功績は多大である。

和田 秀一郎

株式会社プロゴワス
代表取締役社長



●日本フォーム印刷工業連合会

受賞理由

平成18年より九州フォーム印刷工業会会長を20年にわたり務め、組織の活性化と基盤強化に尽力。

平成19年より日本フォーム印刷工業連合会常任理事、令和2年より副会長に就任し、地方の現状や経験を連合会事業に反映させるなど、永年にわたり団体活動の中核を担い、フォーム印刷業界の振興発展に多大なる貢献をした。

印刷功労賞

藤田 信昭

株式会社ふじたプリント社
代表取締役



●一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会

受賞理由

1998年度から2年間副会長を務めたのち、2000年度から2年間理事に就任。

さらに2004年度から2年間監事を務め、2006年度から現在まで約20年間にわたり参与の要職にある。四半世紀以上の長きにわたり数々の要職を歴任し、組織の基盤強化と業界の発展に貢献を続けている。2001年印刷振興賞受賞。

田中 尚寛

田中手帳株式会社
代表取締役社長



●全日本製本工業組合連合会

受賞理由

現在、全日本製本工業組合連合会副会長、大阪府製本工業組合理事長の要職を務める。全製工連監事として、長年、組合の財政健全化取り組みへ寄与した。

また、「紙の未来プロジェクト」委員長として、業界内外への広報による活動周知、全国大会における活動展示、継続的な展示会出展など、製本業界の業態変革モデルを示すべく、組合員事業の進化、発展に寄与する活動を牽引している。

渡辺 俊二

北日本シール印刷株式会社
代表取締役社長



●全日本シール印刷協同組合連合会

受賞理由

当連合会では、広報国際委員を2期、技術特許委員を1期、副会長を3期勤めた。

特に組織の強化と活性化に向けた取り組みには副会長在任中尽力され、組合の存在意義を明確にした活動と運営は特筆するものがあり、組合の発展に大きく貢献した。

杉山 真一郎

富士特殊紙業株式会社
代表取締役社長



●全国グラビア協同組合連合会

受賞理由

2021年「東海グラビア印刷協同組合」理事長、「全国グラビア協同組合連合会」副理事長に就任し、組合運営に携わり、組織強化、業界の振興発展に貢献している。特に近年は、適正価格への取組、環境問題に対する社会的責任の取組、過剰品質問題への取組、人手不足解決に向けた外国人労働者採用に関わる制度変更への対応等々、グラビア印刷業界、組合が抱える課題に積極的に取組み、具体的事業計画を推進してきた。各種勉強会等の計画、取適法啓蒙、VOC排出抑制規制への対応、中央官庁への働きかけ、育成就労制度への移行に関わる周知活動等組合員企業に大きな影響を与えた。

井上 亘

株式会社ショウエイ
代表取締役会長

●日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会



受賞理由

平成19年5月GC東京の監事に就任以来、19年の長きに亘り業界団体組織の要職を歴任し、現在も理事として団体活動へ貢献している。

平成27年からはGCJ副会長並びにGC東京専務理事として全国及び東京地区の組織の中核を担い、組織の振興に努めた。常に組合の要職にあって、円滑な組合運営と活発な組合の指導的な役割として組合運営に貢献した功績は多大である。

内藤 正和

内藤プロセス株式会社
代表取締役

●全日本スクリーン・デジタル
印刷協同組合連合会



受賞理由

2020年、スクリーン・デジタル印刷技術の普及を目的とした常設ショールームを開設した。

また2021年に『スクリーン印刷作業マニュアル』改訂版を発行し、業界技術の継承と普及に貢献した。

さらに2022年、講師に菅義偉第99代内閣総理大臣を招いて連合会創立50周年記念式典を開催し、次世代に向けた業界の発展と地位向上を目指し、組合員の団結に大きく寄与した。

印刷振興賞

國府田 徳明

共同印刷株式会社
顧問(非常勤)



●印刷工業会

受賞理由

印刷工業会においては長く出版印刷部会に参加し、2022年から2024年まで幹事長を務めた。その間、部会内の各種分科会に参加して物流問題など業界の課題解決に努めるとともに、「ら・ぶっく」の活動を推進し、本や印刷の魅力を広く周知することに貢献した。自社においては、入社以来出版印刷部門に在籍し、出版社との関係性を深め、当社の業績拡大に貢献した。

曽根 秀司

株式会社DNPマーコムプロダクツ
取締役・常務執行役員



●印刷工業会

受賞理由

1981年3月大日本印刷株式会社入社。商業印刷の製造部門に従事し、モノづくりの生産改善を推進し、2014年7月に株式会社DNPグラフィカの執行役員に就任後も印刷事業の発展に大きく貢献した。

横瀬 健

株式会社千代田グラビヤ
執行役員
購買部統括部長



●印刷工業会

受賞理由

永年にわたり建材印刷部門の営業として活躍し、執行役員建材事業部長を務め、現在は購買部長として資材の安定調達や仕入先との関係強化に努めるなど、社業ならびに業界の発展に大きく貢献している。

上原 健一

株式会社ソーゴー
代表取締役



●全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

令和2年から令和4年までの2年間、全印工連監事、神奈川県工組常務理事の要職を務める。この間、「印刷産業の構造改善」をテーマに、各種事業を積極的に推進し、中小印刷業界の地位向上、組織強化の推進に尽力するなど、中小印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

大川 哲郎

株式会社大川印刷
代表取締役社長



●全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

平成30年から令和2年の2年間、全印工連監事、神奈川県工組副理事長の要職を務める。また、全印工連では、長年に亘りCSR推進委員を務め、企業がCSRに取り組むきっかけとして、「全印工連CSR認定制度」の創設に尽力し、業界発展に寄与した功績は多大である。

桑波田 健

岡田印刷株式会社
代表取締役社長



●全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

令和2年から令和6年まで、全印工連理事、愛媛県工組理事長として中小印刷業界の振興発展に尽力する。平成24年から2年間にわたり、全印工連環境・労務委員会委員を務め、環境関連情報の収集と積極的な周知・啓発を行った功績は顕著である。

廣田 達功

株式会社ヒロタ
代表取締役



●日本フォーム印刷工業連合会

受賞理由

東北フォーム印刷工業会の理事及び会長として、長年にわたり業界活動に積極的に参画し、地域の印刷関連事業の振興に尽力するとともに、会員企業間の交流促進や情報共有、人材育成の推進などを通じて業界の活性化に多大な貢献をした。

吉村 泰明

カワセコンピュータサプライ株式会社
常務取締役



●日本フォーム印刷工業連合会

受賞理由

1987年にカワセコンピュータサプライ株式会社に入社以来営業部門の要職を務め、業界の発展に貢献するとともに、2013年より関東フォーム印刷工業会の理事に就任後、団体活動に積極的に関り、その活性化に大きく貢献した。

岡本 泰

株式会社フィックス
代表取締役社長



●一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

受賞理由

2018年度より副会長4年、2022年度より会長を4年務める。「ジャグラコンパクトDX」を掲げ、小規模企業でも取り組めるDX推進を強力に牽引し、会員企業のビジネス活性化に多大なる貢献を果たした。

宮崎 真

株式会社ニシキコネクト
代表取締役



●一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

受賞理由

2016年度から4年間理事を務めたのち、2020年度から2年間副会長に就任。2022年度から2年間再び理事を務めた。在任中は、教育・技術委員会委員長として「ジャグラBB」や「ジャグラコンテスト」の普及に寄与し、2020年度からは生産性向上委員会担当副会長として、DX事業の推進に多大なる貢献を果たした。

富岡 誠治

有限会社TOMY'S
代表取締役社長



●全日本製本工業組合連合会

受賞理由

全製工連においては、長年、商業印刷製本専門委員長として組織を牽引した。東京工組においては、副理事長として組合の原価積算アプリケーション開発を実現し、組合員の原価管理DX化に寄与した。また、動画メディアを駆使し、企業インタビューや組合情報を積極的に発信し組合広報に貢献している。

森山 健二

ミラクル工業株式会社
代表取締役



●全日本シール印刷協同組合連合会

受賞理由

当連合会では常務理事を1期、理事を4期目、経営委員を1期、環境委員を2期歴任している。調整力、コミュニケーション能力に長けており組織運営の要として厚い信頼を得ており、組織の発展に大きく貢献した。

印刷振興賞

遠藤 乱歩

株式会社グラネット
代表取締役

●日本グラフィック
コミュニケーションズ工業組合連合会



受賞理由

平成19年5月理事就任以来16年にわたり組合の要職にあり、円滑な組合運営と活発な委員会事業に尽力。令和5年からはGC中部専務理事として理事会・総会等の運営に携わり、指導的な立場で組合に貢献した功績は顕著である。また、人格識見ともに卓越し他の範となる者であり、特に斬新な発想と、俯瞰的に物事をとらえた実行力は高く評価されている。

石田 勝年

七欧産業株式会社
代表取締役社長

●全日本スクリーン・デジタル印刷
協同組合連合会



受賞理由

世界的フィルムメーカーの加工代理店として官公庁も顧客に車両マーキング・反射材など優れた製品を提供している。北海道組合の理事長として全国大会開催などを通じ後進の育成に尽力している。

古田 育則

加久上紙工株式会社
取締役会長

●全日本光沢化工紙協同組合連合会



受賞理由

中部光沢化工紙協同組合において、12年にわたり専務理事、副理事長として組合運営・事業活動を積極的に推進した。その後、12年以上現在に至るまで監事の職を務め、後輩の指導に当たるとともに、自ら業界の多様性を追求する経営を行い、組合員の模範となり業界の発展に貢献してきた功績は、誠に顕著である。

特別賞

滋賀県印刷工業組合

未来に伝える 「淡海(おうみ)のいろ」

滋賀県印刷工業組合 理事長 中村 寿志

●全日本印刷工業組合連合会

受賞理由

印刷物の付加価値向上を目指す「淡海(おうみ)のいろプロジェクト」を令和3年度に始動。地元の滋賀県立大学との連携協定に基づき、学生の瑞々しい感性と写真家等の専門的な視点を融合させ、印刷業者ならではの色彩について協議を重ねた結果、令和4年度に12色を選定、翌5年度には15色を追加選定。これにより、県内19市町を網羅する合計27色の選定すべてが完了した。抽出された各色には滋賀の自然や特産品、文化を象徴する名称やア



イコンなどが付与され、地域の物語を紡ぐ特別な色として誕生した。「淡海(おうみ)のいろ」は、単なる印刷技術の提供に留まらず、地域の文化的価値に深く踏み込むことで付加価値向上を図ったことは、中小印刷業界の発展・振興に大きく貢献している。



新たなビジネス事例

印刷イノベーション

ITソリューション事例

大学運営を効率化するシラバス システムを自社で企画・開発・運用 イエズミ印刷株式会社(東京都)

印刷という枠を超えて、IT技術とマルチメディア技術を駆使し、顧客に最適なソリューションを提案しているイエズミ印刷株式会社。同社は、1907年の創業以来、100年以上にわたって印刷事業を展開してきた老舗の総合印刷会社である。そんな同社では、1990年代末から既存の印刷案件から派生したITソリューション事業に着手、顧客の原稿制作や校正作業のデジタル化を推進し、Web制作のみならず、各種システム開発、アプリ開発、映像制作、CM制作にも取り組むようになり、顧客に紙メディアにこだわらない、最適な伝え方を提案し事業の幅を広げている。家住社長にITソリューション事業を中心に話を伺った。



■本社ビル

■利便性の高いLMSを開発する

家住社長は、大手総合商社に6年勤務した後、1997年に退職し、ご尊父が社長をしている現会社に入社した。当時は厳しい経済環境下ということで立て直しを図る必要があったという。

同社が今日、印刷業だけでなくITソリューションに注力し軌道に乗せることができた背景には、家住社長の入社が大きく影響している。「入社した時は印刷のことが分かっていませんでしたから、それがかえって商社で知見を得ていたIT技術を活かす要因になったと思います。印刷会社でも

印刷に捉われず、マルチメディアに展開していく必要性を感じたのです」と振り返る。

その新しい技術を取り入れる意志が現在の同社を形作っていると言えよう。代表取締役社長に就任する2010年までに、次々と新しい事業・サービスに着手していった。

社長に就いた当初、「私たちの仕事はお客様の思いを伝えることであって、紙媒体に拘わらなくてよい。お客様の要望を聞いて最適なコンテンツや仕組みを提案していきましょう」と、社員に訴えた。その理念に社員たちは共感した。そして、Webシステムを開発できる人材を採用し、次第に印刷に捉われないマルチメディアを扱う業態へと進化していった。

「教育機関で働いていた人材が入社し、大学の業務を改善するためのシステム開発に意欲的だったこともあり、次々とシステム開発に携わっていったことが大きいです。彼とはもう20年来一緒に仕事をしていますが、非常に志が高くいつも新しい技術を学び仕事に活かしています」とのこと。有能な人材がいかに重要であるかが分かる。今では社内で定期的に会議を開き、新しいサービスの企画を社員間で話し合って提案しているという。

同社は、大学などの教育関連向け書籍・教材、履修登録用紙、時間割などの印刷をメインに、各種商業広告印刷や金融業界におけるディスクロージャー関連印刷などを手掛けている。家住社長は1997年の入社後すぐにITソリューション事業部を立ち上げ、web制作、システム開発、アプリ開発、各種デジタルコンテンツ制作に着手。その後、映像制作、プロモーション動画制作、CM制作などの事業も展開するようになった。

その中でも家住社長は「当時お取引引きをしていた大学が、毎年シラバスを制作する際に、教員との原稿のやり取りをメールやWordを駆使して編集、管理している状況を見て、システム化の必要性を強く感じ、1998年にシラバスのデータベース化とWebシステム上での編集・管理・運用システムを開発しました」と話す。

そのシラバスシステムは「e-campus System」と名付け

最前線!

第6回

この連載では、既存の印刷製品の優良事例や非印刷領域における先端事例を紹介します。

られた、大学のカリキュラム管理やシラバス制作支援の経験と実績を基にした独自のシステムである。大学管理者や教員のシラバス制作に関わる負担を大幅に軽減することができるのが特徴だ。

■企画・開発で大切なのは「発想力」

その後、学生向けにシラバスと授業内容を結びつけ、学修効率を高めるLMS (Learning Management System=学習管理システム) プラットフォームを開発。「既存アプリケーションを活用しながら導入コストを抑制し、セキュアで安定した運用を実現し、大学独自のカリキュラム管理、学習支援、学生ポートフォリオなどを支援します。そして、直感的で理解しやすい操作性を目指しました」とのことだ。

同社は代理店を介さずユーザーである大学や金融機関と直接取引し、リーフレットやカタログ、パンフレット類の印刷物を受注していたため、紙からWebシステムへ提案がしやすかった面があった。

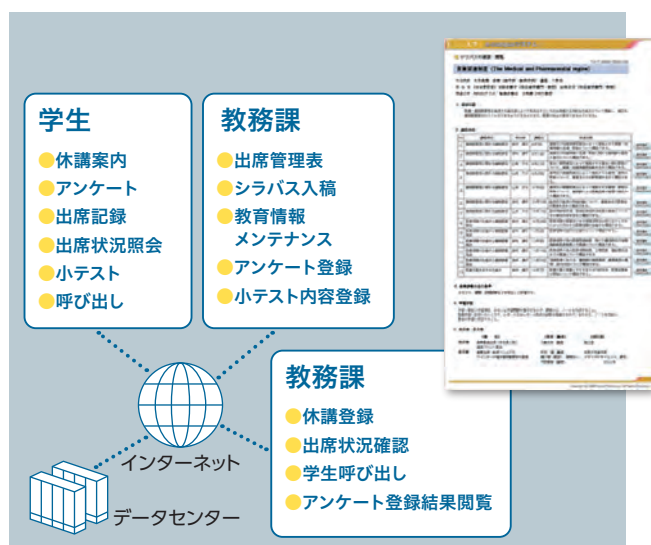
「お客様のニーズや情報に直に触れていたため、的確なコンテンツの提案ができる体制でした。ニーズや状況に応じて、印刷物制作、Webサイト制作、システム開発と振り

分けることもできました。さまざまなツールにコンテンツを落とし込んで提供していくことで、当社の存在価値を見だしていった感があります」。

コロナ禍を機に、大学側の学生サービス効率化・自動化、学生とのコミュニケーションツールへのニーズが増えている中で、さまざまな目的に沿って個別にツールを導入し始めていた。同社では、大学が個別に導入した機能を統合するシステムの開発に着手。「当社はGoogle Cloud Partner Advantageに なっていますので、大学に対してGoogleのさまざまなアプリケーションと連携することを促しつつ、Googleのアプリを活用して、大学独自のアプリや教育用ソフト、学習コンテンツを開発し提供しています」。

また、企業向けアプリ開発も行っているが、「昔は単体のアプリを開発しインストールしてもらっていましたが、最近はブラウザベースのクラウドサービスに変わってきています。お客様の業務データや商品データ、個人情報をお預かりし、データベース化して最適なソリューションを提供しています」とのことだ。顧客情報を扱うため同社では情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格であるISO 27001を、2007年に業界に先駆けて取得し、情報セキュリティには万全を期している。

今後は大学も少子化の影響で運営がますます難しくなっていくことが予想される。「就職先の情報提供や大学への寄付などを効率的に行えるよう、卒業生とのネットワークを構築するシステム開発を構想しているところ」とビジョンを述べる家住社長。最後に「大切なことは『発想力』だと思います。お客様と話している中で何を求めているのかを感じ取り、お客様が求めるもの以上のコンテンツやシステムを考え、作り出していくことです。そのことを社員には常々言っています」と締めくくった。



■「シラバスシステム」の全容

イエズミ印刷株式会社

所在地：東京都中央区日本橋茅場町1丁目12-9イエズミビル

代表者：代表取締役社長 家住 英樹

創業：1907年10月

U R L : <https://www.iezumi.co.jp>

2025年度個人情報に関する事故報告(2)

前号に続いて、当審査センターがプライバシーマークの付与適格決定を行った事業者から、2025年度に報告があった事故(52件)のうち、前号で説明しましたウイルス感染(不正アクセス含む)(16件)、封入ミス(10件)以外の事故26件の概要を共有します。

社内教育にご活用ください。

表1 事故の現象別分類(年度別)

報告 件数	分類	漏えい								盗難・紛失・消失			その他	合計	
		誤送付						ウイルス 感染	Web上	その他	盗難	紛失			消失
		宛名 間違い	配達 ミス	封入 ミス	圧着 ミス	FAX 送信	メール 送信								
2021年度		3		2			2		1	1		3			12
2022年度		1		7			7	4	5	2		1	2		29
2023年度		1	1	15	2		8	5	4	1		5	2		44
2024年度		3	2	6			9	8	5	1		5			39
2025年度		2	2	10			9	16	2	7		3		1	52
計		10	5	40	2	0	35	33	17	12	0	17	4	1	176

※ウイルス感染には不正アクセス含む

表2 日印産連プライバシーマーク審査センターに報告のあった封入ミス、メール送信事故(2025年度)

漏えい/誤送付/メール送信	9件
① Googleカレンダーの招待メールを誤って関係のない社外の得意先担当者へ送信したため、招待メールに記載されていた社員2名の氏名、メールアドレスが漏えいした。	
② 社内関係者向けに業務の打診および情報共有を行うメールの送信時に、CCに関係社員を登録する際、誤って同姓の取引先社員のアドレスを登録して送信したため、メールに記載された個人情報が漏えいした。	
③ 採用業務において、内定面談者に連絡メールを送信した際、通常はBCCで一斉送信すべきところ、誤って全受信者のメールアドレスをTO欄に登録して送信したため、内定者全員のメールアドレスが相互に閲覧できる状態となった。	
④ 取引先へ顧客(見込み)の名刺写真を誤送信したため、名刺に記載された個人情報が漏えいした。	
⑤ 委託元からの依頼によりA氏とB氏へ連絡する際、B氏宛のメールをA氏に誤送信したため、メールアドレス、メール内容等の個人情報が漏えいした。	
⑥ ⑤の委託元の報告	
⑦ 委託元から受託したWebフォーム回答業務において、作業者のミスにより、問い合わせ者(顧客)の個人情報を第三者へメール誤送信したため、氏名、生年月日、住所、電話番号、家族に関する個人情報が漏えいした。	
⑧ ⑦の委託元の報告	
⑨ 委託元が用意したメール配信システムによる試験受験者への受験票メール配信業務において、送信者リスト修正時にExcelのフィルタ操作を誤り、A氏に、本人宛の受験票メールに加えて8名分の受験票メールを誤送信したため、8名の氏名、受験内容に関する個人情報が漏えいした。	
漏えい/その他	7件
① A校の卒業アルバムに、他校の8ページが混入した乱丁アルバムを納品し、部活動の生徒の集合写真が漏えいした。	
② データ授受システムを使用した印刷前データの顧客確認業務において、顧客Aに、誤って顧客Bの印刷データを送付したため、氏名の個人情報が漏えいした。	
③ 自社サービスにおいて、自治体Aに送付したZIPファイルが解凍できない現象を受けて、データを再作成した際、手順書のデータ抽出条件の設定方法を誤り、別自治体の市民の氏名、生年月日、住所、電話番号、メールアドレス等の個人情報が含まれたデータを再送した。	

- ④ 同一の委託元から受託している郵便物の印刷・封入封緘・発送業務の2案件において、A宛の封筒にB宛の封筒が付着した状態(水糊の水分過多によるものと推測)で配達される事故が3件発生し、氏名、住所、取引情報等の個人情報が漏えいした。
- ⑤ 資格調査(検認)の印刷製本・発送業務において、調査対象となる1,459世帯の自宅宛に調査書を送付したところ、そのうち1世帯の調査書に別の家族1名の漢字氏名が印字されていたため、氏名の個人情報が漏えいした。
- ⑥ アルバム編集システムのA幼稚園ログイン情報を誤ってB幼稚園に交付(送付)し、氏名の個人情報が漏えいした。
- ⑦ 新聞社が提供するデータベースサービスの委託販売業務において、当社が作成した送付先リストに不備があり、氏名、役職の個人情報が誤って記載された書類を発送した。

盗難・紛失・消滅/紛失	3件
① 社員1名が、会社貸与携帯電話を自宅最寄り駅で誤って落とし、そのまま紛失した。	
② 委託先職員がノートPCを自宅で使用するために持ち帰り、翌営業日に出勤するまでの間に、ノートPCを収納していたカバンごと紛失した。	
③ 廃棄業者が、廃棄物回収の際に、機密書類の一部をパレット外へ落とした。当日は強風であったため、落下した書類が敷地内に飛散する事態となった。飛散した書類については、委託先作業員および弊社スタッフで目視可能な範囲で回収を行った。	

漏えい/誤送付/宛名間違い	2件
① 受託した講演会の案内状印刷業務において、封入物の氏名と、封筒の宛名が不一致の状態で発送したため、氏名と勤務先の個人情報が漏えいした。	
② ①の委託元の報告	

漏えい/誤送付/配達ミス	2件
① 委託先の配送業者により、A氏宅に届けるべき配送物がB氏宅に誤配達され、配送伝票に記載されたA氏の氏名、住所、電話番号の個人情報が漏えいした。配送物自体に個人情報は含まれておらず、開封もされていなかった。	
② ①の委託元の報告	

漏えい/Web上	2件
① Webアプリケーションの団体連携サービスにおいて、利用規約変更時の再同意ができていないユーザーの氏名、生年月日、性別、自宅住所等の個人情報が、システム管理画面上で管理者(契約企業)による閲覧・データダウンロードができる状態になっていた。	
② Webサービスにおいて、Webサイト上では事業者ごとに情報を閲覧できる仕様であったが、他の事業者の氏名、勤務先の個人情報も閲覧可能な状態になっていた。	

プライバシーマーク付与事業者のご紹介

2026年6月～2026年8月に日印産連プライバシーマーク審査センター審査委員会において、プライバシーマーク付与適格決定を受けた事業者は以下のとおりです。

〈第223回審査委員会 2026年6月22日(月)開催〉

【更新事業者】株式会社アイミック、株式会社エスティ、野崎印刷紙器株式会社、新日本印刷株式会社、協同精版印刷株式会社、コーホク印刷株式会社

〈第224回審査委員会 2026年7月27日(月)開催〉

【更新事業者】株式会社ル・プロジェ、株式会社ティ・デイ・エス、光村印刷株式会社、株式会社ヨネヤマシール印刷、TOPPANシステムインテグレーション株式会社、新和印刷株式会社、田口印刷株式会社、株式会社ビザック、株式会社ウイズム、株式会社国府印刷社、株式会社千代田、株式会社光陽メディア、株式会社ムレコミュニケーションズ、山之内印刷株式会社、株式会社太平印刷社、ダイヤモンド秀巧社印刷株式会社、東京物流企画株式会社、株式会社昇寿堂、株式会社秀巧堂

〈第225回審査委員会 2026年8月24日(月)開催〉

【更新事業者】丸正印刷株式会社、株式会社旭堂、富士精版印刷株式会社、佐川印刷株式会社、大日本印刷株式会社、株式会社近代美術、アベ印刷株式会社、共同精版印刷株式会社、太平洋印刷株式会社、文唱堂印刷株式会社、星光社印刷株式会社、株式会社DNPプランニングネットワーク、杉山メディアサポート株式会社、株式会社高速、株式会社日進堂印刷所、第一印刷株式会社、株式会社エイチケイグラフィックス、株式会社ミヤプロ



グリーンプリンティングニュース

2026GP環境大賞等表彰

日印産連では、印刷業界のより高いレベルでの環境保全活動を推進するため、印刷業界独自に定めた環境自主基準「印刷サービスグリーン基準」を制定し、2006年から印刷工場と印刷製品の総合的環境配慮を認定する「グリーンプリンティング認定制度(GP認定制度)」の普及・拡大を進めています。

2015年からはGP認定制度の活用には積極的な企業・団体に対して、感謝の意を込めて、GP環境大賞、GPマーク普及大賞、GP資機材環境大賞を贈呈しています。

※企業・団体名は五十音順

GP環境大賞(表彰対象:クライアント)

GP環境大賞は、印刷業界が地球環境への負荷低減に取り組むために創設したGP認定制度に対して、深く理解し積極的に活用していただいている企業や団体に敬意と感謝の意を込めて贈るものです。2026GP環境大賞は、2025年度にGPマークを表示した印刷製品をより多く発注した企業・団体を表彰します。また、パッケージを中心にGPマーク表示が拡大する中、表彰の対象を一般印刷とパッケージ印刷の2部門に分けるとともに、過去3回GP環境大賞を受賞した企業・団体には、4回目の表彰時にその活動に対して最大の賛辞と敬意を表するために「GP環境大賞ゴールドプライズ」を贈呈しています。

GP環境大賞ゴールドプライズ

■ 日本航空株式会社



※GP環境準大賞ゴールドプライズをすでに受賞している企業：株式会社あわしま堂、大阪商工信用金庫、NTTタウンページ株式会社、株式会社ジェイアール東日本企画、株式会社タカラトミー、東京都、東武鉄道株式会社

2026GP環境大賞



一般印刷の部

■ 株式会社教育芸術社



■ 株式会社ファンケル



パッケージ印刷の部

■ 国分グループ本社株式会社



2026GP環境準大賞

一般印刷の部

- 株式会社熊本リビング新聞社
- 株式会社ホンダモビリティ南関東



パッケージ印刷の部

- 有限会社味源
- 竹下製菓株式会社
- チャコット株式会社

GPマーク普及大賞（表彰対象：印刷会社）

GPマーク普及大賞は、GPマーク表示にもっとも貢献したGP認定工場を他の模範として、会社単位で表彰するものです。2026GPマーク普及大賞は、2025年度にGPマーク表示印刷製品をより多く受注・製造した印刷会社を表彰します。本賞は、オフセット印刷部門、グラビア・シール・スクリーン印刷部門、製本・表面加工部門の3部門に分けて表彰します。なお、過去3回以上GPマーク普及大賞を受賞した印刷会社で継続的な実績が認められた場合には、最大の賛辞と敬意を表するために、「GPマーク普及大賞ゴールドプライズ」を贈呈します。

2026GPマーク普及大賞ゴールドプライズ

- 株式会社KASAMA
- 株式会社北四国グラビア印刷
- 丸正印刷株式会社
- 六三印刷株式会社



2026GPマーク普及大賞

オフセット印刷部門

■ 宝印刷株式会社 ■ 株式会社文伸



グラビア・シール・スクリーン印刷部門

■ 株式会社巧芸社

2026GPマーク普及準大賞

オフセット印刷部門

■ 伊藤印刷株式会社 ■ 精英堂印刷株式会社



グラビア・シール・スクリーン印刷部門

■ 賀谷ゼロファン株式会社

製本・表面加工部門

■ 株式会社シュウエイ ■ 株式会社多田紙工

GP資機材環境大賞（表彰対象:資機材メーカー）

GP資機材環境大賞は、印刷工場環境負荷低減及び作業環境改善に貢献し、GP資機材認定製品を積極的にご提供いただいている資機材メーカーに贈るもので、2025年度にGP資機材認定製品の新規登録数をもっとも多い資機材メーカーを資材、機材の部門別に表彰します。なお、本賞については、今年度から過去に同部門を受賞したメーカーも選考対象となる。なお、登録数、新規登録数の下限値条件を設けており、今年度は該当なしとなりました。

資材部門 ■ 該当なし

機材部門 ■ 該当なし

「紙の価値」を発信する祭典 「ペーパーサミットジャパン」

～日印産連、造本コンクール・カタログ・カレンダー展の

全日本印刷工業組合連合会(全印工連)と日本洋紙板紙卸商業組合は、7月24日・25日の2日間、東京都立産業貿易センター浜松町館(東京都港区)において、紙と印刷の祭典「ペーパーサミットジャパン2026」を開催しました。日本印刷産業連合会(日印産連)は本イベントを後援するとともに、造本装幀コンクールおよび全国カタログ展・全国カレンダー展の受賞作品を展示し、印刷物の価値と魅力を広く発信しました。

「ペーパーサミットジャパン」は、「紙のある暮らしをもっと豊かに 一紙とどこまでも一」をコンセプトに

掲げ、紙をつくる人、届ける人、使う人をつなぎながら、紙と印刷の魅力や新たな可能性を体感できるイベントとして開催されました。大阪で開催されてきた「ペーパーサミット」を全国規模へ発展させたもので、全印工連が推進する「紙の価値の啓発活動」の中核事業として位置付けられています。

会場は「MARKET」「TALK」「GALLERY」「FACTORY」の4つのエリアで構成され、全国の印刷会社やクリエイターによるオリジナル商品の展示・販売、紙加工や印刷技術を体験できるワークショップ、紙の可能性をテーマとしたトークセッションなど、多彩な企画が展開されました。デジタル化が進展する社会においても、紙ならではの手触りや温もり、情報を伝える力、創造性を再認識する機会となり、多くの来場者で賑わいました。

日印産連はGALLERYエリアにおいて、造本装幀コンクールの受賞作品に加え、全国カタログ展および全国カレンダー展の受賞作品を展示しました。優



2026」に出展

受賞作品を展示～



れた製本・印刷・加工技術やデザイン性を備えた作品の数々は、多くの来場者が足を止めて見入る姿が見られ、印刷産業が生み出す高い技術力と表現力を広く発信する機会となりました。

また、同会場では「MUD FAIR 2026」も同時開催され、紙や印刷を切り口とした幅広い展示・交流が行われました。2日間の来場者数は4,125人に上り、東京で初開催となった今回のイベントは大きな



盛況を見せました。

紙と印刷は、情報を伝えるだけでなく、人と人をつなぎ、新たな価値を創造する重要な役割を担っています。今回、ペーパーサミットジャパンに参加し、紙や印刷の魅力を改めて発信するとともに、関係団体との連携を深める有意義な機会となりました。日印産連では、今後もこうした活動への参加を通じて、関係団体との連携を図りながら、紙と印刷の価値や印刷産業の魅力を発信していきます。



第59回 造本装幀コンクール 授賞式 開催レポート

2026年9月28日(月)／出版クラブ(神保町)

2026年9月28日(月)午後3時より、神保町の出版クラブにて、第59回造本装幀コンクールの授賞式が開催されました。全国から295点の応募が寄せられ、厳正な審査を経て選ばれた22点の受賞作品が一堂に会しました。当日は、ご来賓、受賞者、出版・装幀・印刷・製本関係者など約100人が出席し、日本の本づくりの魅力を分かち合う機会となりました。

授賞式の概要

式典は、日本書籍出版協会理事長の山本憲央氏と日本印刷産業連合会会長の大橋輝臣氏による主催者代表挨拶に続き、審査委員長・浜田桂子氏による審査総評、各賞の賞状授与が行われました。



山本理事長
主催者代表挨拶



大橋会長
主催者代表挨拶



浜田審査委員長
審査総評

開会にあたり、山本理事長および大橋会長より、出版文化と印刷・製本技術の継承に向けた思いが述べられました。続いて浜田審査委員長より、295点の応募作に見られた造本技術の進化やデザインの多様性、新しい表現への挑戦などについて、審査総評が述べられました。

その後、最高賞である三賞をはじめ、審査員奨励賞(3点)、後援団体賞、日本書籍出版協会理事長賞(6部門)、日本印刷産業連合会会長賞(6作品)が順次授与され、受賞代表者に賞状と賞杯が手渡されました。

三賞受賞者による喜びのスピーチ

式典後半では、三賞を受賞された代表者3名によるスピーチが行われました。



文部科学大臣賞
吉田亮人氏



経済産業大臣賞
宮添浩司氏



東京都知事賞
今宿未悠氏

文部科学大臣賞：Three Books 吉田亮人氏

作品完成にかけた思いと、装幀・印刷・製本が一体となったチームワークへの感謝が語られました。

経済産業大臣賞：宮添浩司氏(デザイナー)

細部へのこだわりや、「紙の書物」として形にする意義、本を読むシーンを思い描きながら制作した思いを述べられました。

東京都知事賞：今宿未悠氏

作品に込めた思いと、詩人として本を通じて読者へ届ける喜びが語られ、会場は温かい拍手に包まれました。

授賞式を終えて

授賞式終了後には、受賞者・プレゼンター・審査員による記念撮影を行いました。関係者が一堂に会し、日本の本づくりの魅力と可能性を共有する機会となりました。



集合写真

尚、第59回造本装幀コンクールの受賞作品をはじめとする全応募作品295点が東京都千代田区神田神保町のクラブライブラリーにて展示しています。

場所：クラブライブラリー
(東京都千代田区
神田神保町1-32
出版クラブビル3F)
会期：9月25日(金)～
10月22日(木)
10:00～18:00
(土・日・祝日を除く)



また、誠品生活日本橋・誠品書店(選書壁面)にて、第59回造本装幀コンクール販売・パネル展示フェアを開催中です。

場所：誠品生活日本橋・誠品書店(選書壁面)
期間：2026年9月25日(金)～11月1日(日)

第59回造本装幀コンクールの受賞作品とショートリストのうち、ISBNがついている一部作品と公式冊子を特別ブースにて販売しております。その他の受賞作品はパネルで紹介していますのでぜひ足をお運びください。

印刷工業会

「9月 印刷の月」協賛特別講演会 アンガーマネジメントから学ぶ、 円滑なコミュニケーション

印刷工業会では、2026年「9月印刷の月」協賛行事として、8月26日(水)、教育・研究部会主催による特別講演会を開催しました。

講師には、人材育成コンサルタント・研修講師の森みや子氏をお招きし、「“アンガーマネジメント”から学ぶ心理トレーニング～円滑なコミュニケーションで信頼関係を築く“感情コントロール術”～」と題してご講演いただきました。当日は、会場とオンラインを合わせて約90名が参加しました。



講師の森みや子氏

講演では、職場や取引先との円滑なコミュニケーションを図るため、怒りの感情とうまく付き合い、適切にコントロールするための方法を、具体的な事例を交えながらお話いただきました。

「アンガーマネジメント」とは、怒りをなくすことではなく、「怒りで後悔しない」ための心理トレーニングです。怒りは、自分の立場や尊厳、大切なものを守るために生じる自然な感情ですが、強度や頻度が高い、長く引きずる、人や物、自分自身に向けてしまうといった状態は問題につながります。特に職場では、怒りが周囲に伝染し、雰囲気や信頼関係、モチベーションの低下を招く可能性があります。

怒りの背景には、「こうあるべき」という自分自身の価値観があります。そのため、まず「アンガールグ」で怒りを記録し、自分の傾向を知ることが重要です。

具体的な対処法として、「6秒待つ」「三重丸で考える」「分かれ道で判断する」という三つのコントロール方法が紹介されました。また、相手を責めるのではなく、「してほしいこと」を具体的な「リクエスト」として伝え、「私は」を主語とする「Iメッセージ」を活用することも大切だと説明されました。日々の小さな実践を積み重ねることが、より良い人間関係につながると締めくくられ、参加者から大きな拍手が送られました。



全日本印刷工業組合連合会

『ペーパーサミットジャパン2026・ MUDフェア2026』盛大に開催

全印工連と日本洋紙板紙卸商業組合(日紙商)が共催し、日本製紙連合会の協力のもと、7月24日(金)～25日(土)の2日間、東京都立産業貿易センター浜松町館において『ペーパーサミットジャパン2026・MUDフェア



(右から)製紙連・小川顧問、日紙商・清家理事長、全印工連・瀬田会長、MUD協会・浦久保理事長

2026』が開催され、2日間で4,125名が来場するなど、大いに賑わいを見せました。

3F展示室では、会場の中央に計78社・105ブースのマルシェが配置され、それを取り囲むように「紙わざ大賞」「MUDフェア」「日本製紙連合会」「日本印刷産業連合会」「ワークショップ」「デザインのひきだし」「プリントラバーズ」の7つの展示エリアが設けられました。マルシェには各出店者の紙の魅力を活かして制作した多彩な商品が並び、来場者は思い思いに買い物を楽しみました。また、ワークショップエリアでは紙芝居・紙飛行機・魚釣り・MAKE道場・ぺばぶんたす・紙のプールといった、子どもたちが紙に触れながら楽しめるさまざまなアクティビティが展開され、会場には終始子どもたちの歓声と笑顔が溢れていました。



マルシェ全景



紙のプール

4F第3会議室では、2日間で計6テーマのトークセッションが行われ、各回とも多くの聴講者が訪れました。各分野の第一線で活躍する専門家・クリエイターが講師を務め、紙と環境、紙と化学、紙とデザインなど、多様な視点から紙の可能性や価値について考える機会となりました。

紙にまつわる3団体が連携して全国規模のイベントを開催する初の試みとなった今回、多くの来場者を迎え、紙の魅力や可能性を幅広く発信する機会となりました。今回の開催結果を踏まえ、来年も『ペーパーサミットジャパン』の開催を予定しています。



トークセッション会場

日本フォーム印刷工業連合会

日本フォーム印刷工業連合会「2026年 夏季特別講演会」、関東フォーム印刷工業会「2026年 夏季懇親会」を開催

8月20日(木)、「2026年 夏季特別講演会・懇親会」をホテル椿山荘東京にて、全国の会員および関係者に参加をいただき、盛大に開催しました。

日本フォーム工連(小林友也会長)主催の「夏季特別講演会」では、日本サイバー犯罪対策センター(JC3)業務執行理事の櫻澤健一氏をお招きし、「情報化社会におけるサイバー空間の脅威と情勢について」と題して約1時間の講演が行われました。リモートを用いたハイブリッド形式で約130名が参加され、情報セキュリティが生命線であるフォーム印刷業に身を置く者として、みな終始真剣な表情で聴講されていました。

講演では、ランサムウェア攻撃・フィッシング詐欺・ボイスフィッシングなど多岐にわたる脅威が解説され、特に中小企業が標的になりやすい現状と、経営者が主体的に対応すべき理由が強調されました。また講演後は参加者との質疑応答も行われ、インシデント発生時の初動対応・警察への相談・被害公表の重要性について具体的な示唆が共有されました。

講演会に引き続き、関東フォーム印刷工業会主催の「夏季懇親会」を110名にご参加いただき開催しました。



講師：櫻澤健一氏



日本フォーム 小林会長 関東フォーム 松本会長 日印産連 高島専務理事

開会にあたり、松本康宏会長は被災地である熊本・千葉へのお見舞いの言葉に続き「先ほどの櫻澤さんの講演会で非常に多くのことを学ばせていただいたが、サイバー攻撃への対応は平時からの準備が非常に重要だということで、これを皆さんと是非実践して参りたい。」と挨拶。その後日本フォーム工連の小林会長の来賓挨拶に続いて、日本印刷産業連合会の高島淳一専務理事の乾杯により開宴し、新規入会の特別会員の紹介など、終始和やかな雰囲気でおおいに懇親を深めました。



懇親会

日本グラフィックサービス工業会

地方理事会で慰労会開く

7月17日、愛知県名古屋市のウインクあいちで、原田会長をはじめとする新執行部による理事会を開催しました。理事会では新年度事業体制を確認するとともに、11月の全国協議会のテーマに関して活発な議論が交わされました。また、理事会後は前期理事、そして諸先輩によるマスターズクラブも交え、総勢約50名による慰労懇親会が開かれ、新旧、諸先輩入り混じって交流を深めました。



挨拶する原田会長



名古屋で地方理事会を開催



慰労懇親会

今年も印刷屋さんのお仕事展を開催

ジャグラーは8月2日(日)、3日(月)の2日間、東京・晴海のはるみらいで、「印刷屋さんのお仕事展4」を開催しました。2日間を通じて、中央区をはじめ、多くの方に来場いただきました。

同イベントは、ジャグラーが毎年実施しているジャグラー作品展の応募作品を通じて、広く一般の方々に印刷ならびにグラフィックサービスの業界のお仕事を知らせると共に、体験企画を通じて、中学生以下の子どもたちに、印刷業界を知ってもらうために開催しています。

今年も、「親子で学ぼう ガリ版体験教室」や残紙を使った紙釣り、色を混ぜて作り出すファンキードリンク、手作り缶バッジのコーナーを設けました。また新たに和綴製本や孔版スタンプ体験も企画し、子どもたちにもものづくりの楽しさを感じていただく2日間となりました。未来の印刷業界を担う子どもたちへの種まきになったのではと思います。



孔版スタンプ体験



人気のファンキードリンク

全日本製本工業組合連合会

書籍・雑誌専門委員会 長野で工場見学と情報交換

全日本製本工業組合連合会（全製工連）の書籍・雑誌専門委員会は7月25日、長野市内で開催され、各県工組から38名が参加しました。開催地のダンク セキ株式会社および株式会社渋谷文泉閣の2社による工場見学を実施した後、ホテルメトロポリタン長野に会場を移して専門委員会と懇親会を開き、各地の業界情勢の報告や相互の交流を深めました。

16時からの専門委員会は金子誉副委員長の司会で進行了しました。主催者を代表して牧委員長が挨拶に立ち、見学を受け入れた開催地2社への深い感謝を述べるとともに、東京工組の佐立新理事長からのメッセージを代読しました。続いて全製工連の本間敏弘担当副会長が挨拶し、長野工組が正会員へ復帰したことへの歓迎と期待の意を表しました。



委員会の様子



渋谷文泉閣前で集合写真

続く各工組からの近況報告では、厳しい景況感や資材高騰への対応策、独自の取り組みなどが活発に発表されました。学参やカタログの需要減少をはじめ、中東情勢等に伴うホットメルトやクラフトテープなどの資材不足・価格高騰に対し、塗布量の厳密な測定による単価反映や、製本単価値上げの機運と捉える姿勢が示されました。また、出版物や部数の減少が進むなかで紙媒体の持つ価値や記録性を再確認する意見のほか、デジタル印刷機や同人誌事業の活用、事業多角化、社内での多能工化による打開策が共有されました。さらに外国人雇用の推進に伴う新規加入や、企業間ネットワーク構築の重要性についても報告がなされました。

懇親会では丸山雄大副委員長の開会挨拶に続き、全製工連の田中眞文会長が「長野工組の復帰を心から歓迎する。雇用制度の変化にも対応し、組合加入のメリットを高めていきたい」と挨拶しました。乾杯の発声を務めたダンク セキの関武士社長は、長野における印刷製本産業の歴史的背景を紹介し「時代の変化に対応し、競い合うよりも連携が大切である」と語りました。最後に中締めとして渋谷文泉閣の渋谷鎮社長があらためて感謝を伝え、「繁栄を補い合い、困ったときには仕事面での交流も深めていきたい」と今後の業界の発展を祈念して締めくくりました。

全日本シール印刷協同組合連合会

第36回 シールラベルコンテストを実施 50社81作品の応募があった

第36回 シールラベルコンテストは令和8年6月5日（募集開始）～7月15日（応募締切）で行われ50社81作品の応募があった。

第36回 シールラベルコンテスト応募状況（確定版）

応募社数	50社（60社）	作品数	81作品（103作品）
自由課題	25作品（35作品）	規定課題	56作品（68作品） 平圧21作品（23作品） 輪転35作品（45作品）
北海道	1社4作品	東海北陸	7社11作品
東北	3社4作品	京都	4社7作品
正札	14社22作品	大阪	12社17作品
ラベル	0社0作品	九州	7社13作品
神奈川	2社3作品		

（ ）は昨年度

全国の各協組から選出の技術委員による第1次審査会（基礎技術を審査）は、7月31日に東京シール印刷会館3F会議室にて行われ、その後の8月7日には「上野精養軒」にて、日印産連・協賛会各役員による第2次審査会（主にデザイン面を中心に審査）を行い、経済産業省商務・サービスグループ文化創造産業課の中村課長補佐、木ノ瀬係長もオブザーバーとしてこれら上位賞が内定した。

第1次審査会で審査された作品のうち、点数が高い上位20作品（自由課題）を第2次審査会に持ち込みそこで加点された作品のうち、最も高得点を獲得した作品に「経済産業大臣賞」、第2・3位の作品には「経済産業省大臣官房商務・サービス審議官賞」が授与される。以下、第4位に「日本印刷産業連合会賞」、第5位に「全日本シール印刷協賛会会長賞」が授与される。

また、規定課題で平圧若しくは輪転の第1位作品のうちから高得点を「日本印刷産業連合会会長賞」、次点の作品が「全日本シール印刷協賛会会長賞」に選出される。

「全日本シール印刷協同組合連合会会長賞」は各部門の上位作品を選出。

「技術・特許委員会賞」総合順位で上記賞に準じた作品を選出、「優秀賞」は自由課題、規定課題で一定の基準を満たした作品数点を選出した。

表彰式並びに結果発表は、令和8年10月16日開催予定の第68回 年次大会・東京大会で行われる。

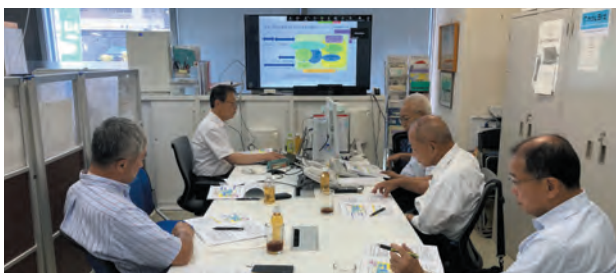
全国グラビア協同組合連合会

「関グラセミナー」「中災防セミナー」を開催

全国グラビア協同組合連合会の傘下である関東グラビア協同組合は、6月29日(月)京橋エドグラン29階(artience東洋インキ(株) 本社)にて、「関グラセミナー」を開催しました。WEB出席者も含め、合計110名の方に出席頂きました。講義としては、①「グラビア印刷業界の近況」(全グラ 田口会長)、②「取適法と公正取引委員会の役目について」(公正取引委員会 石井課長補佐)、③「印刷産業環境ビジョン2050 カーボンニュートラルの進め方」(日印産連 内藤部長)、④「育成就労制度と外国人労働者の状況について」(株共新 宮尾取締役本部長)とグラビア業界に於ける旬のテーマについて、丁寧にご説明頂きました。会場からは、熱心な質問が相次ぎ、予定していた時間をオーバーするほど活発なセミナーとなりました。セミナー終了後は、会場を移し懇親会を実施し、お互いの親交を深めました。



また、7月23日(木)には、関東グラビア協同組合の事務所より、WEBによる「労安法例の新たな化学物質管理規制」セミナーを全国向けに発信致しました。講師には、中央労働災害防止協会より武井貴史先生をお迎えし、約2時間に及ぶ講義を頂きました。日印産連より戸田部長にもお越しいただき、グラビア業界に関わる内容について、補助的にご説明頂きました。本セミナーは、「新たな化学物質管理規制」の中でも、グラビア業界の実務者向けに特化した内容に纏めて頂き、全国より100名を超える方々の出席を頂きました。



日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会

第2回 理事会開催 ～GCJ東京大会の募集始まる

8月25日、ZOOMによる理事会を開催しました。

各事業委員会からの報告、地区工組報告、日印産連報告に続き、11月20日に開催のGCJ東京大会の式典での表彰者の選考と松浦大会実行委員長よりセミナーとグループディスカッションの内容について説明がなされました。

参加者募集用のチラシも完成し、いよいよ参加者の募集が始まります。



日印産連表彰受賞

日本印刷産業連合会の『9月 印刷の月 記念式典』が9月9日ホテルニューオータニで開催されました。日印産連表彰でGCJ井上亘理事(GC東京)が印刷功労賞を、同遠藤乱歩理事(GC中部)が印刷振興賞を受賞しました。井上理事はGCJ副会長、GC東京専務理事等、19年の長きに亘る組合運営に対する功績を称えるものです。遠藤理事も長年に亘るGC中部の運営に対する貢献が評価されました。遠藤理事は名古屋より、山田副会長とともに式典出席の予定でしたが、前日の豪雨で交通が遮断され出席が叶いませんでした。



印刷功労賞受賞の井上理事と
錦山会長

GC青年会の紹介と活躍

2024年設立当初より活発な活動が続ける、GC青年会(会長:株日光プロセス原田一徳氏)は「共有し、学ぶ」「情熱を持ち、繋がる」「思考し、行動する」の3つをモットーに16社が加盟し、隔月毎の勉強会の他、毎月イベントを行い、密度の濃い交流を行っています。

今年度は、リコージャパンさんを講師に招き5回に亘る営業マン教育が進行中です。

GCJが推進する、生産シェアプロジェクトも取り入れ実際のビジネスでも結果を出しつつあります。写真は東京グラフィックサービス青年部の皆さんとの交流会の様子です。



東グラ青年部さんとの交流会

全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会

令和9年 新春大会のご案内

令和9年 新春大会を、令和9年1月22日(金)～23日(土) グランドエクスピア浜名湖において開催します。



全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会
JSDPA
令和9年 新春大会のご案内

新春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は当連合会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、
厚く御礼申し上げます。
さて、令和9年新春大会を下記の通り開催いたします。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催日時 令和9年
1月22日(金)～23日(土)

開催場所 グランドエクスピア浜名湖
〒431-1207 静岡県浜松市中央区村郷町4620
TEL: 053-488-0111

美しい浜名湖の自然に囲まれた
リゾートホテルで、
有意義な交流のひとつを
お過ごしください。

大会スケジュール	
1月22日 (金)	13:15～15:15 理事会 (理事・監事のみ)
	15:30～16:15 新春大会 (理事・監事以外の方はここからご参加ください)
	16:30～17:30 講演会
	17:30～19:00 休憩・入湯
	19:00～21:00 懇親会
1月23日 (土)	21:00～ 二次会 (希望者のみ)
	宿泊
1月23日 (土)	朝食後解散 有志によるゴルフ会開催

参加費 28,000円【一泊二日】
二次会参加の場合は 30,000円【一泊二日】

★ 令和9年の新たな挑戦に向けた情報共有と意見交換
★ 業界の最新動向を学べる講演会
★ 親睦を深める懇親会・二次会
★ 美しい浜名湖の自然とリゾートステイ

ご案内
詳細なプログラム・参加申込方法につきましては、
後日改めてご案内いたします。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先 全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会 (JSDPA) 事務局
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-34-2 神保町ビル301号室
TEL: 03-6265-4618 FAX: 03-6265-4619 E-mail: info@jstdpa.org

全日本光沢化工紙協同組合連合会

第4回 大阪府六団体協議会 親睦会へ参加

全日本光沢化工紙協同組合連合会傘下の関西光沢化工紙協同組合は六団体協議会 親睦会を7月11日(土)午後6時00分より、「TUFFE」に於いて開催。

猛暑の中、総勢48名の参加がありました。世話人会の前田守委員長(紙料)による開会の挨拶の後同氏に促され、富塚宗寛相談役(製本)より今春の黄綬褒章受章の御礼とご挨拶があり、続いて、7月7日にご逝去された木田庄一郎副理事長(印刷機材 前理事長)を偲び、全員で黙とうを捧げました。須田充訓理事長(紙料)の幹事組合の代表挨拶、次回の幹事組合の田中尚寛理事長(製本)による献杯の発声を合図に随所で歓談の輪が広がりました。

猛暑日の中、喉も最高に乾いたところに冷たいビールで自然とグラスの空さも早く、中盤に差し掛かるころからは席を移動するなど、組合の垣根を超え大いに賑わいました。宴もたけなわの中、野々下進一理事長(印刷機材)より、「今回、弊組合では様々な事があったが、これからも皆で一生懸命やっていきたい、また六団体に加盟できたのも木田前理事長のお蔭、こちらも皆さんと共に業界を盛り上げていきたいと思っております」との中締めの挨拶があり、同氏の一筆締めをもって、散会となりました。

ご参会頂きました皆様、お疲れ様でございました。



2026年 7 月 Jul. 2026

2(木)	第2回 グリーンプリンティング推進部会 GP周知活動WG	*
	グリーンプリンティング制度概要説明会	*
	環境マネジメント部会	日印産連会議室 *
7(火)	労働安全衛生部会	日印産連会議室 *
13(月)	グリーンプリンティング認定工場更新説明会 オフセット印刷部門	印刷会館 202・203
14(火)	第2回 グリーンプリンティング推進部会	*
	第1回 知的財産部会	日印産連会議室
16(木)	グリーンプリンティング認定工場更新説明会 グラビア印刷部門	*
21(火)	グリーンプリンティング申請書作成説明会	*
22(水)	日印産連表彰選考委員会	印刷会館2F 大会議室 *
	第2回 ステアリング・コミッティ (運営委員会)	印刷会館2F 大会議室 *
23(木)	第66回 グリーンプリンティング認定工場交流会	*
27(月)	プライバシーマーク審査員勉強会	日印産連会議室 *
	第224回 プライバシーマーク審査委員会	日印産連会議室 *
29(水)	第3回 理事会	印刷会館2F 大会議室 *
30(木)	環境関連法規集WG	日印産連会議室

2026年 8 月 Aug. 2026

3(月)	カレンダー・カタログ実行委員会	日印産連会議室
	グリーンプリンティング制度概要説明会	*
20(木)	グリーンプリンティング申請書作成説明会	*
24(月)	第225回 プライバシーマーク審査委員会	日印産連会議室 *
25(火)	マスコミ懇談会	日印産連会議室

2026年 9 月 Sep. 2026

2(水)	グリーンプリンティング制度概要説明会	*
9(水)	2026年「9月 印刷の月」 講演会・記念式典・懇親会	ホテルニューオータニ
14(月)	第84回 グリーンプリンティング工場認定委員会	*
17(木)	第3回 環境表彰制度WG	日印産連会議室 *
28(月)	プライバシーマーク審査員研修会	日印産連会議室 *
	第226回 プライバシーマーク審査委員会	日印産連会議室 *
	造本装幀コンクール 表彰式	出版クラブビル
29(火)	第3回 グリーンプリンティング推進部会 GP周知活動WG	*

*WEB開催、併用の会議



事務局だより

朝夕には少しずつ涼しさを感じるようになり、ようやく秋の気配が近づいてきました。とはいえ、日中はまだ汗ばむ日もあり、秋の装いに切り替えたい気持ちと、もう少し夏服を手放せない気持ちの間で、毎朝悩まされている今日この頃です。

そんな中、スポーツのニュースから元気をもらう日々は続いています。特に気になるのは、やはり大谷翔平選手の活躍です。一時戦列を離れましたが、復帰戦では早速ヒットを放ち、変わらぬ存在感を見せてくれました。個人的には、朝のニュースで大谷選手の結果をチェックするのが習慣になっており、「今日も頑張ろう」と一日のスイッチを入れるきっかけにもなっています。

そんなスポーツのニュースに元気をもらいつつ、私達事務局も秋の行事に向けて準備を進めてきました。

9月9日(水)に、2026年「9月印刷の月 記念式典」を開催致しました。式典の様子は本号巻頭で特集しております。

関係者の皆様のお力添えにより、式典を無事に終了することができましたこと、心より御礼申し上げます。

講演会では、小説家の今村翔吾氏を講師に招き、「印刷が支える本の未来を考える」をテーマに講演いただきました。

表彰式を執り行いました、2026年度日印産連表彰で授賞者につきましては、今号P.9～15でご紹介しております。受賞者の皆様、この度のご授賞、誠におめでとうございます。

した。

懇親会も多くの方にご参加いただき、和やかな雰囲気の中、皆様の交流を深める場となりました。

GPニュースにてご紹介しております、GP環境大賞等の表彰は、10月14日(水)に出版クラブホールにて表彰式を執り行いましたので、次号でその様子をご紹介します。

また、7月に開催されたペーパーサミットジャパンに出展した様子もP.26～27に掲載しております。

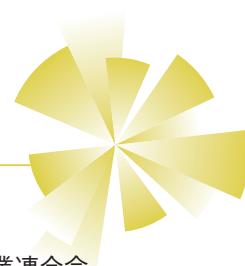
次のイベントは2027年1月7日(木)開催の「新年交歓会」になります。

皆さまにお目にかかれる機会となりますので、当日お会いできることを事務局一同、心から楽しみにしております。新しい年の始まりに、笑顔あふれるひとときとなるよう準備を進めております。

「新年交歓会」の様子は、次号2027年1月号で特集致します。

季節の変わり目は、体調を崩しやすい時期でもあります。皆さまもどうぞ無理なさらず、体調に気を配りながら、秋の味覚やスポーツなど、それぞれの「秋」を楽しんでいただければと思います。

爽やかな秋風の中、皆さまにとって実り多き秋をお過ごしください。



【表紙デザイン 作品プロフィール】

共同印刷株式会社 プロモーションメディア事業部コミュニケーションデザイン部 コーポレートコミュニケーションデザイン課

クリエイティブ力の高いディレクターを中心に、企業の戦略や価値を質の高い表現で伝えるコミュニケーションを生み出すチーム。

表紙デザインは「色で紡ぐ、四季の印刷。巡る季節と変わらぬ品質」をテーマに、躍進性・改革性・爽快感を現代的かつポップに表現。

10月号は、紅葉や稲穂をモチーフに、静けさの中ににじむ秋の郷愁を表現している。

発行日 2026年10月29日

発行人 高島 淳一

発行所 一般社団法人 日本印刷産業連合会

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

日本印刷会館 8階

TEL 03 (3553) 6051

FAX 03 (3553) 6079

<https://www.jfpi.or.jp>

グリーンプリンティング公式キャラクター
2代目「ジッピー」として
新しく生まれ変わりました!



ぼくジッピー!
新しくなったぼくが
GPを紹介するね

ジッピー

グリーンプリンティング(GP)は、印刷によって生じるさまざまな地球環境への負荷を減らすために生まれた制度です。

20周年の節目に、公式キャラクターが新しく生まれ変わりました。

ジッピーとともに、GPの魅力をよりわかりやすく伝えていきたいと考えております。

●GP紹介1分動画



グリーンプリンティングのことを
ジッピーが短く・やさしく1分で紹介。営業現場で
“説明の手間が減る”動画になっております。

Q グリーンプリンティング



一般社団法人 日本印刷産業連合会
Japan Federation of Printing Industries
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館内
TEL 03-3553-6051 FAX 03-3553-6079
<https://www.jfpi.or.jp/>



GREEN PRINTING JFPI
P-D10019
この印刷製品は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。